
【ヒナギクさん家の悩みごと】

—さん

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

【ヒナギクさん家の悩みごと】

【コード】

N6005G

【作者名】

ーさん

【あらすじ】

完璧なスキルをもつヒナギクを娘に持つヒナギク母にも、実は自分の娘について悩みごとがある。それは…

最近、ヒナギク母には悩みごとがある。

今、社会を悩ましている景気低落、による我が家の危機…ではない。確かに不安があるが、まだ我が家はその影響を受けていない。

じゃあ、離婚の危機か。それこそ論外だ。パパとはいつもラブラブ（死語）で浮気パパがでもしない限り、離婚なんてするはずがない。そして、娘思いのあのパパが浮気をしようなんて考えもしないだろう。では、何に悩んでいるのかというところ…

ドン、ドン、ドン

階段を降りる足音が聞こえた。頭の中で警音がなる。

来たっ！！

「おはよう、お母さん。」

「おはよう。早いわね〜」

「そんなに早く無いわよ」

まだ眠気のある目をして冷蔵庫に向かう愛娘に、
「今日もね…」と一つ苦笑い。

そんな母親の様子にも気付かずに、娘は冷蔵庫から魔法の秘水を

手に取ると、コップにうつさずにグイッと一気に飲み始めた。その量なんと1リットル。

それをゴクゴクゴクと、たいらげる。

「プハっ」と全て飲み干してしまった我が娘は空の容器を見せ、言い放つ。

「無くなっちゃった。ごめん、今日も多く買ってきてくれない？」

ヤッパリと、何処か諦めた感じでそれに了解すると、娘は用意した朝食をとり始めた。

まあでも、気持ちは判らないでもない。女の子なのだ。だから、気にするなという方が無理な話で。

ヒナギク母の視線はある一部分に注がれた。

平原のようなそれは、同年代の女性と比べて少し、いやかなり足りないと思う。別に膨らみが無いわけではない。ただ、見えないと言っただけのことだ。

良く言っっては着痩せをする。悪く言っっては、ぶっちゃけ貧乳。

そんな身体をする愛娘、桂ヒナギクにヒナギク母は遠い目を向けていた。

だけど、女の子は胸だけじゃない。我が娘は容姿端麗、頭脳明晰なのだ。そんなヒナギクに女性の魅力が感じられないわけがない。

何故か不機嫌になる視線を感じヒナギクは怪訝しげに尋ねる。

「ん！どうしたの？」

「ヒナちゃん！！」

名前を言われると共に、ガシッと肩を掴まれた。

「えつと…何？」

自分の母親の突然の行動に戸惑いを覚えながらもきき返した。
だが、次の母の言葉に何も言えなくなる。

「女の子の胸じゃないよ。」

…

ほ、本当は

「女の子は胸じゃないよ」だ。

自分が言った過ちに気付かないまま、満面の笑みをヒナギクに向ける。

たゆんと、その胸が揺れた。その一点だけを見ていたヒナギクはおもむろに席を立ち、

「う、うわあ~~~~ん」

泣きながら家を出て行った。

取り残されたヒナギク母は未だに自分の過ちに気付かずに、走り

出したヒナギクに疑問を持った目を向けるのであった。

e n d

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6005g/>

【ヒナギクさん家の悩みごと】

2010年10月14日21時40分発行